

大学院特別講義のご案内

日時: 2016年3月28日(月) 17:30～ 19:00(質疑応答時間あり)

会場: 大阪大学大学院医学系研究科最先端医療イノベーションセンター1階マルチメディアホール

演題: 「中枢機能障害性疼痛・特発性慢性疼痛」—私の痛みはどこから来るの?—

演者: 三木 健司 先生(早石病院 疼痛医療センター長／
大阪大学大学院医学系研究科 疼痛医学寄附講座 特任准教授)

(本特別講義は、大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター主催 第14回学術セミナーとして開催されます。)

(共催 大阪大学医学部附属病院疼痛医療センター学術研究会 / あゆみ製薬株式会社)

【要旨】

通常、「痛み」を患者さんが訴えた時に医師は、必ず身体のどこかに器質的異常が有って、その異常のために治療を求めていると考える。しかし、現代社会においては、痛みの種類が発展途上国と異なることが知られており、最近注目されている考え方が、中枢機能障害性疼痛・機能性疼痛とされる病態である。

中枢機能障害性疼痛・機能性疼痛は器質的な疾患が認められないのにもかかわらず、「痛み」が長く続き、かつ患者のQOLが著しく低下している場合がある。通常、器質的な「痛み」は侵害受容性疼痛と神経障害性疼痛に分類され、それ以外のものはしばしば心因性疼痛と分類される。心因性疼痛の定義は明確でなく、器質的疼痛でないものの中に機能性疼痛症候群、中枢機能障害性疼痛と心因性疼痛などが存在するという考え方が提唱されている(図)。全ての治療者がこれらの病態を理解することで、術後遷延痛、事故や医療行為による痛み、心理・社会的な要因の影響がある痛みのある患者へ上手に対応することで、患者さんの自覚症状である「痛み」を改善し、Patient-reported outcomeがよくなることを願っています。

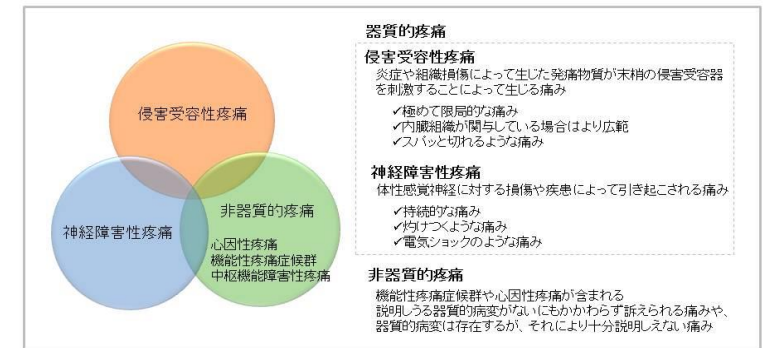


図1 痛みの機序による分類: 器質的疼痛と非器質的疼痛

痛みの機序による分類は、侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、非器質的疼痛に分類する方法が一般的である。非器質的疼痛の定義は様々であるが、その中に機能性疼痛症候群(FPS)が存在するという考え方があり、中枢機能障害性疼痛(central dysfunctional pain)と呼ばれることもある。ただ、ほとんどの痛みは、これらが複雑に絡み合った混合性疼痛であると考えられる。痛みに含まれるこれらの構成要素のバランスを考えると、痛みの治療法の選択や薬物選択の大きな助けになる。
Functional Pain Syndrome: Mayer EA et al. IASP press)

Modern Physicain Vol. 32 No. 4 501 2012-4

診療の秘訣 後遺症診断書の発行について

三木健司 行岡正雄

機能性疼痛症候群と線維筋痛症 運動器慢性疼痛診

療の手引き 三木健司 南江堂 2013年

(問い合わせ先: 歯科補綴学第一教室・石垣・内線2946)